

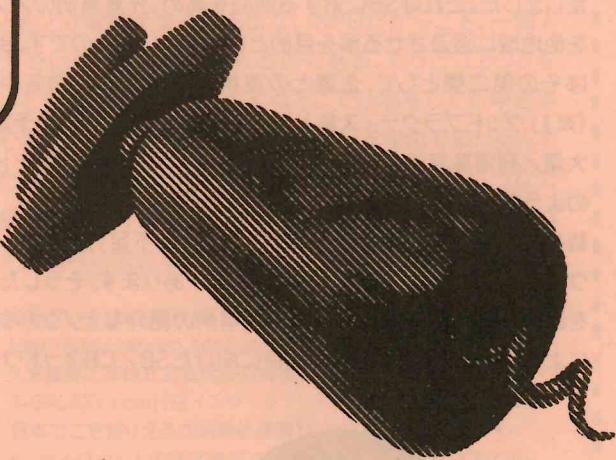
2011年1月1日 Vol.73

# みみ んん



【題字】 谷川俊太郎さん

## MY FAVORITE お気に入り小物拝見



こちらの木製ワインオープナーは、理事対談ゲストの新井さんが職場の先輩から20年ほど前に頂いたフランスのお土産。普段ワインを飲まない新井さんは、毎年奥様がプレゼントしてくれるボジョレー・ヌヴォーや、結婚記念日など、年に1~2回の特別な日に、これでワインを開けて楽しむとのことでした。洒落た形も気に入っているので、飾り小物として活躍しているそうです。

### ■目次

- P2~3 理事対談  
(経済産業省東北経済産業局 課長補佐 新井純さま×代表理事 大滝精一)
- P4~6 せんだい・みやぎNPOセンターの事業から  
(2010年10月—2010年11月)
- P7…… 「もっとコミットを、そしてもっと冒険を!」(加藤哲夫)  
新スタッフ紹介
- P8…… 新規会員・継続会員、編集後記、お知らせ、連絡先等

# 理事対談

## 「SB/CBが東北に元気をもたらす」

今回は、東北経済産業局でソーシャルビジネス(以下SB)やコミュニティビジネス(以下CB)の支援を担当する新井純さんと大滝理事の対談です。東北地区のSB/CBを取り巻く状況や、その可能性についてお話し頂きました。

### ■東北経済産業局SB/CB支援の近況

大滝／新井さんは東北経済産業局職員としてSB/CBの支援に携わっていますが、東北経済産業局という行政セクターがSB/CBに支援を実施するようになった背景を教えて下さい。

新井／近年、各地域でSB/CBの取り組みが盛んになってきました。経済産業省でも数年前にSB研究会を立ち上げ、イギリスを中心とする諸外国を参考に、SBに対する継続的な支援方法について検討を重ねています。昨年、全国でSB/CBに先進的に取り組んでいる事業者を広く公募し、「ソーシャルビジネス55選」を選定しました。これはSBに対する関心を高め、先進事例のノウハウを他地域に波及させる事を目的として実施したものです。今年度はその第二弾として、企業との連携などの活動事例を中心に(※1)グッドプラクティス集としてまとめ、年度内に公表予定です。

大滝／経済産業省として考えている、SB/CBへのサポートはどのようなものですか？

新井／SB/CBの課題として、「社会の認知不足」「経営のノウハウ不足」「集まる場の不足」という3点があります。こうした課題を踏まえ、広報支援策の実施、先進事例の紹介などノウハウ移転による人材育成、そして場の提供に向けたSB/CBネットワーク



の構築支援等を行なっています。

大滝／SB/CBの発展には3点とも大事ですね。SB/CBに国内各地域で取り組み、その効果を多くの方に広める必要がありますが、現状では旗を振るリーダーや農商工連携のプロデューサーが不足していると感じます。SB/CBには産業界とNPOの両方に精通している人材が必要です。今までにある業種だけではなく所に大きな可能性があるはずなので、そうした部分に支援の大切さがあるのではないかでしょうか。

新井／現在の社会は色々な分野で行き詰まりや閉塞感があり、これまでの仕組みの限界が来ているのかもしれません。農商工連携などで限られた資源を共有しあい、共に発展していく流れが必要だと考えています。

大滝／それぞれの分野や業界において、かつての成功パターンを踏襲しても上手くいかない実感を多くの方が持っています。しかし今は「次に何をしたらいいか分からない」という状況の中、非営利、官民セクターも悩んでいます。そこで背中を一押して、未来への展望を開く支援ができるのは、経済産業省だと思います。

### ■東北におけるSB/CBの可能性としての「農商工連携」

大滝／支援の一つにノウハウ移転がありましたら、東北の事例など紹介をお願いします。

新井／東北経済産業局の支援で行った事例は、岩手県遠野市の遠野山・里・暮らしネットワークで「かかりつけ産直」として都市部に地域の産物を提供したり、農業体験、農家民宿等に取り組んで頂いてますが、このノウハウを秋田県の阿仁地域や福島県の会津地域など、県境を越えたノウハウ移転を行っています。

大滝／そうしたノウハウが県境を越える例は多くないと思います。これが阿仁や会津から、さらにノウハウ移転していくと東北としてのダイナミズムが生まれるだろうし、東北経済産業局が主体的に関わる事で東北の中で新しいSB/CBの流れが生まれる気がします。

新井／今後は県単位でSB/CB事業所をネットワーク化して協議会を立ち上げる予定ですので、そこから新しい展開が生まれてくるのではないかでしょうか。さらには東北ソーシャルビジネス推進協議会を軸に、東北全体をネットワーク化して支援ができればと考えています。特に東北は1次産業比が全国的に高いので、それに従事する方が元気にならないと地域が元気になりません。農商工連携など新しい視点を持って、SB/CBに取り組んで頂く事が東北に元気をもたらす事になります。

大滝／東北に存在する地域資源が何かと考えた時に、素晴らしい農産物があります。しかし、その農産物に付加価値を付けるのは東京という現状があるので、少しでも付加価値を付ける取り組みを行い、それが成功して地域で生計が成り立つという事例が増えると良いのではないかでしょうか。



**新井／雇用**という面から見ると、東北経済産業局で支援した青森県五所川原市にあるコミュニティカフェ「でる・それ」では、1人の女性の想いから4名の雇用に結びつきました。そうした取り組みが各地で起きている事実に目を向けると、SB/CBの広がりや可能性に期待せずにいられません。

**大滝／**各地のSB/CB事例から、世代を問わずに女性が頑張っている印象があります。男性にも優れたリーダーはいますが、女性の良い所は自分の力だけでやろうとしないこと。自分1人で抱え込みます、周囲を巻き込みながら多くの方から協力を引き出している気がします。SB/CBの世界は自分が万能というより、色々な知恵や力を借りながらネットワークを構築するというのが、一つの手法だと思います。女性が置かれている自分たちの問題・現状というのも、大きな原動力になっているはずですが、そうした女性の持っている価値観やエネルギーを、SBやCBに向けてもらう事が、東北の、特に農村地域のCBでは重要ではないでしょうか。

**新井／**SB/CBの世界では、何かしたいと言う想いを表すと、その想いへの共感者、支援者が集まるようですね。「でる・それ」さんの事例では、消費者と提供者と生産者がつながる絆の拠点を作りたいという想いや信念が、1次産業が盛んという東北の土壤とつながり、共感の輪をより広げたのでしょうか。

## ■2011年 SB/CBの展望は「出会いと気づき」

**大滝／**私たち「せんだい・みやぎNPOセンター」でも、SB/CBを支援する「フラスコおおまち」や「みやぎソーシャルビジネスネットワーク」(むすぶん)が本格的に稼動しました。SB/CBを行政側から支援する立場として2011年という年に期待することや、「フラスコ」「むすぶん」に期待することをお聞かせ下さい。

**新井／**一言で言うと「出会いと気づき」です。色々な視点を持った方が集まり、そこで気づきが得られるような人ととの出会いが重要です。むすぶんやフラスコの場をきっかけに出会い、新しい可能性に気付いて、SB/CBをどんどん展開して頂きたいですね。

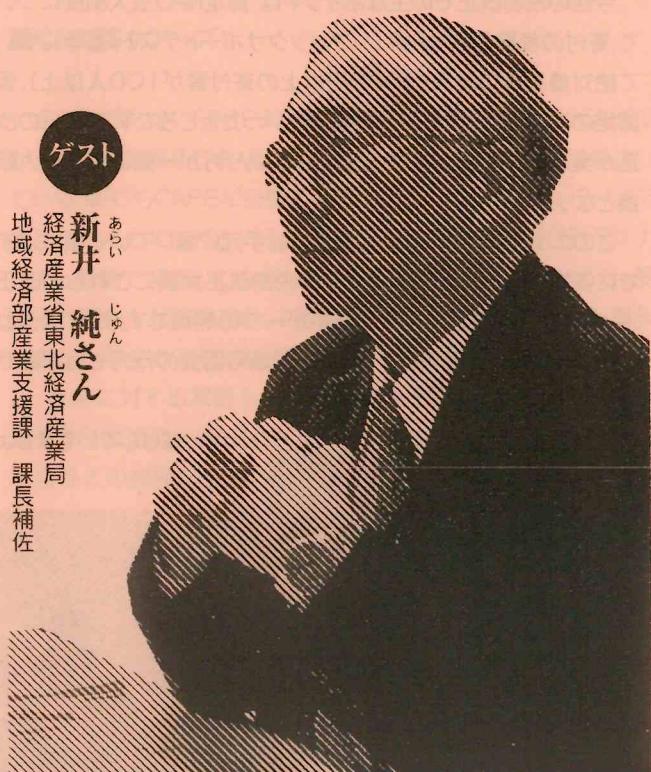
今までのリーダーという存在は「引っぱる」という存在でしたが、これからリーダーは「むすぶ」役割も重要なのではないかと考えています。

**大滝／**今は1億総中流という時代ではなく格差社会という時代になり、社会的弱者をどのようにサポートしていくかという課題があります。その中で、課題は税金で解決するという伝統的な福祉社会や、寄付などの従来の方法とは違う手法、すなわちSB/CBで課題に取り組もうという社会の流れが急速に広まりつつあります。今年はSB/CBが事業として成り立つ事の意味、それを社会の中に根付かせていく重要な年になりそうです。そういう意味では、2011年はSB/CBに関わる人達にとって、ターニングポイントとなるでしょう。

**新井／**行政では、従来の施策先は団体・法人などの組織への支援が常でしたが、SB/CBは個人の想いが地域を動かすという事に目を向けて、その取り組み1つ1つに対して手を差し伸べられるように、支援対象を広げる動きが必要だと感じています。

(記録・編集・菊地竜生)

※1 グッドプラクティス：グッドプラクティスとは、課題の克服や問題解決のためのすぐれた実践例。ビジネスや経営においては、世界で最も優れていると考えられる業務プロセス、業務推進の方法、ビジネスノウハウのこと。先進企業の成功事例、あるいは世界で最も優れていると考えられる業務プロセス／業務推進の方法／ビジネスノウハウを指し、自社の業務改革の目標となる最高水準の状態を指す。



ゲスト

新井  
あらい  
純さん  
じゅん  
経済産業省東北経済産業局  
地域経済部産業支援課  
課長補佐

## 市民公益税制改正運動

10年に1度と言われている市民公益税制改正の動きがいよいよ大詰めとなっています。11月11日(木)には改正運動の中心になっている(特活)シーズ・市民活動を支える制度をつくる会の主催で寄付税制東京集会が開催され(共催:NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会)、当センターからも事務局スタッフの布田が参加し、リレートークに登壇しました。

### ■高まる市民公益税制改正への期待

与党からは民主党政策調査会税制改正PT／新しい公共調査会事務局次長の岸本周平衆議院議員、新しい公共調査会副会長の辻本清美衆議院議員が出席。市民公益税制改正の最新状況について報告していただきました。

その後、NPO側からの税制改正実現への期待・要望としてリレートークがあり、布田からは認定NPO法人の認定機関の地方移管について、地方のNPOの立場から地方の実情を伝えました。

集会には会場いっぱいの100名を超える参加があり、税制改正への期待の大きさは与党の両議員にも十分伝わったと思います。

### ■市民公益税制改正のポイントと今後の動き

今回の税制改正での主なポイントは、認定NPO法人制度について、寄付の税額控除やPST(パブリックサポートテスト)基準について絶対値基準の導入(3000円以上の寄付者が100人以上)、仮認定の導入、認定機関の地方移管といったところです。これらの改正が実現すれば、日本における寄付のあり方が一気に変わる大転換となります。

このニュースレターがみなさまのお手元に届いている頃にはすでに決定されていますが、12月の税制改正大綱にこれらの改正ポイントが盛り込まれるかどうかが一つの焦点です。また、衆参ねじれの国会の状況からも、1月からの通常国会の行方も目が離せません。

市民公益税制改正の実現まで、もうひとがんばりしていきましょう。(布田剛)



## みやぎソーシャルビジネスネットワーク(むすぶん)、本格稼動!

ここでも何回か取り上げたみやぎソーシャルビジネスネットワーク(通称むすぶん。以下、むすぶんと表記)が、ついに本格稼動しました。これまで動かしながら考えるスタンスでプレオープニングイベント、オープニングイベントを開催してきましたが、改めてむすぶんの概要や運営方針について、ご案内いたします。

### ■ロゴが表現する、むすぶんのコンセプト

まず、むすぶんのコンセプトについておさらいです。むすぶんは、ソーシャルビジネスを立ち上げたい人、立ち上げた人、応援したい人によるネットワーク。会員同士の交流を通じて、宮城県において、ソーシャルビジネスの誕生と成長を促進することを目的としています。下記は、当センター専属デザイナーの田内がつくった、むすぶんのロゴです。「MSBN」の上にプロットされている点々が表すのは、北斗七星。むすぶんが、宮城のソーシャルビジネスを明るく照らす道しるべになること目指すというビジョンが表現されています。また、宮城県は7つの県域に分かれますが、7つの星には宮城県をカバーするネットワークであることをあらわしています。



みやぎソーシャルビジネスネットワーク  
Miyagi Social Business Network

### ■むすぶんが提案する、交流のカタチ

主な会員特典は、月2回程度プラスチックおおまち内で開催する「SBナイト」への参加と、ML上の情報交換。「SBナイト」では、「事務局主催のミニ講座」、「会員をゲストに招いた意見交換会」を交互に実施していく予定です。前者では、ソーシャルビジネスの実践者や大学の研究者などをゲストに招き、ソーシャルビジネスの概念や運営方法に対する理解を深めていただきます。また、後者は会員個々人が考えている事業プランや課題などを参加者同士で共有することで、新たな気づきや出会いをもらたすことを目指した活動です。

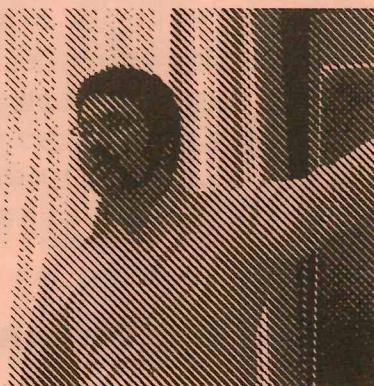
詳細は当センターのHPに掲載していますので、ぜひご覧ください。(大橋雄介)

## ソーシャルメディアを使いこなそう! ～ツイッター勉強会～

「ツイッター」ということばを耳にするようになってから暫くたちます。国内だけでも750万人以上に利用されていると言われる、このツイッター。市民活動団体やNPOとしての活用方法はどのようなものがあるのか。まず基本を知ろうと、10月16日(土)、日本財団システム統括グループの山田泰久さんを講師にお招きし、「ツイッター勉強会」を開催致しました。

### ■ツイッターのメリットは?

ツイッターによる情報発信(収集)のメリットを、山田さんはこのように解説してくださいました。「ツイッターとは140字以内で綴るミニブログのようなもので、インターネットを利用したコミュニケーションツールの一つ。個人が持つ



ている情報を発信することにより、それに賛同する人がさらに彼らのツイッターで情報を広げてくれる。同じ興味を持つ人々の間で、情報のやりとりが双方向に行われることとなる。」冒頭に「個人が情報を発信し、また形成していくメディア」を「ソーシャルメディア」と言うとの説明があったのですが、ツイッターはまさにこうしたツールの一つであると実感しました。

### ■参加者の感想は?

NPO関係者を中心に、「ツイッター怖い、と言うだけではダメだと思った」方から、「興味はあったが、使い方がよく分からぬ」方まで参加動機は様々でしたが、3時間にわたる勉強会終了後は、「ツイッターの性質を把握しつつ、いかに上手に活用していくか、を考えるきっかけになった」、「メリットとデメリットがよく理解できた」という声が聞かれました。また翌日には、さっそくツイッターを開設した参加者から連絡を頂くなど、皆さんの情報発信に対する積極的な姿勢を感じました。ツイッターの特徴を把握し、NPOの情報発信に上手に活用したいものだと思います。

(小川真美)

## せんだいCARES2010 キャンペーン

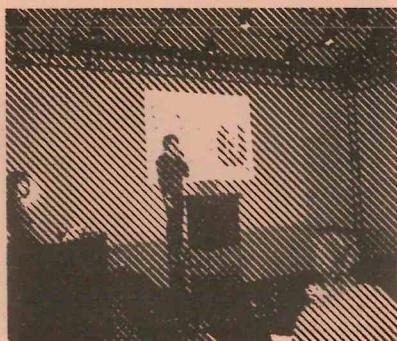
今年で8回目を迎えたせんだいCARESは、仙台のNPO、市民活動団体の活動を市民のみなさまにご紹介する、年に一度のキャンペーン(10月1日(金)~12月17日(金))です。今年もたくさんの方々に支えられて無事にキャンペーンを終えることができました。

### ■Working 30th Project

2005年にせんだいCARES実行委員長もつとめた東北労働金庫勤務の北尚登さんが、今年勤続30年ということで、11月7日(日)に仙台市市民活動サポートセンター地下の市民活動シアターにて、「Working 30th Project」というイベントを主催されました。ご自身で何か地域への恩返しがしたいという思いで、地元出身の歌手や、パフォーマーのステージ、地元のNPOを応援する企画を実施されました。NPOへの支援企画としては、せんだいCARES参加団体である『ふうどばんく東北AGAIN』と『仙台夜まわりグループ』への食料品や、路上生活者のための越冬グッズをイベント内で集めて、寄付するという企画でした。せんだいCARESも団体紹介の映像を流すなど、PRさせていただき、せんだいCARESへのご寄付もいただきました。ありがとうございました。

### ■CARESケアーズ

今年もせんだいCARESの参加団体をCAREする企画、CARESケアーズを実施しております。これは、せんだいCARESに参加しているNPOもCAREが必要ということで、学生がボランティアでお手伝いをしにいくという企画です。今年は仙台市と(株)デュナミスと協働で実施しており、仙台市からの募集も合わせると、受け入れ団体13団体に対して26名の学生が参加しています。毎年参加した学生からは、大学と家との往復では得られない経験をし、社会に対する視野も広がったとの評価をいただいています。最低3日の活動から、2ヶ月ほどの長期の活動など学生によってまちまちですが、去年はCARESケアーズの企画が終わった後も、続けてボランティアを行った学生もいたようです。(田内亜紀子)



## せんだい・みやぎNPOセンターの事業から（2010年10月～11月）

### 「プロペラトースクスvol.8」

仙台市大町のカフェ「AReT」（アレット）にて、今年度2回目のプロペラトースクスが10月19日（火）に開催されました。ゲストは、東北文化学園大学医療福祉学部准教授の西村高宏さん。専門は臨床哲学で、仙台市内で「てつがくカフェ@せんだい」というユニークな市民活動を開催しています。哲学を通じ、日常あたり前と思っている事柄に目を向け、聞き・話し・考えるという共有の場に、世代を超えた十数名の方が集まり、哲学談義を心ゆくまで楽しんでいました。

#### ■正しい答えを出すことが目的ではない

「心はどこにある？」そんな問い合わせを西村さんは投げかけました。一瞬ポカンとする人や顔を見合わせる人、胸に手を添える人など様々です。普段の生活の中でこのようなことを深く考えたりしませんが、なんとなくわかっていること、曖昧なことを改めて問い合わせ、皆で考えることで、自分自身の考えを逞しくすることの難しさや楽しさを体験してもらうことが、今回のプロペラトースクスの目的のひとつです。

#### ■新たな自分に気づきを

利害関係のない、いろいろな世代の人が集い1つのテーマで議論する機会が非常に少ない昨今、とかく他者との考え方方に違いがある場合でも、「そうだねー」とか「わかる気がする」などと妥協して議論を避ける風潮があります。そこで、こうした「てつがく」を通した対話をする場で、考え方の違いを互いに表現しあうことによって、「自分はこんなことを考えていたのか」と、新しい自分に気づく場であってほしいと、西村先生はおっしゃっていました。

「プロペラトースクス」は、これからも多彩なゲストをお呼びし、私達一人一人にできることは何かを改めて考える場を創ってまいります。

次回のプロペラトースクスは、当センター新年会と合同の形で1月12日（水）に開催いたします。詳細は最終頁をご覧下さい。  
(佐藤秀之)



### 市民活動アワード2010

私たちの住む街は、様々な市民活動により日々変化していますが、その変化を感じる機会は、あまり多くはありません。そこで仙台市市民活動サポートセンターでは、市民活動により地域や社会に起こった変化をエピソードとして紹介し、表彰する「市民活動アワード」を創設・実施しました。

#### ■総数500票以上！白熱した市民投票

9月1日（水）～30日（木）の期間に、市民活動により地域や社会を変えたエピソードを公募したところ、12団体から18のエピソードが寄せられました。

まず、一次選考として、10月9日（土）～25日（月）の間、仙台市市民活動サポートセンターの5階展示スペースとホームページ上で市民の投票を受け付けました。一次選考には、あわせて519票もの投票があり、市民の皆さんのがんばりの高さをうかがうことができました。本来、上位8つのエピソードが一次選考を通過していましたが、白熱した投票の結果、同票8位のエピソードが2つあり、9つのエピソードが最終選考会にのぞむこととなりました。

#### ■社会を変えたエピソード集を発行

今回は、市民活動アワードに寄せられた18のエピソードを1冊にまとめ、市民活動アワード2010エピソード集も発行しました。

こちらのエピソード集には、様々な市民活動が、一人ひとりの心の変化から法制度改訂まで、地域や社会を変えてきた様子がぎっしりと詰まっています。500部限定の発行ではありますが、入手ご希望の方は、仙台市市民活動サポートセンターまで、ご連絡ください。

#### ■栄える第1回の各賞が決定

市民活動アワードの最終選考会は11月27日（土）に仙台市市民活動サポートセンター市民活動シアターで行われました。一次選考を通過した9つのエピソードについて、各団体がステージで発表を行い、会場につめかけた市民の皆さんと、中学生～シニア世代まで多様な審査員の投票により、オーディエンス賞、パートナーシップ賞、グラスルーツ賞など、8つの賞が決定。記念すべき第1回市民活動アワードの各賞決定という歴史的瞬間に、会場は大いに盛り上がりました。（太田貴）

## 「もっとコミットを、そしてもっと冒険を！」代表理事 加藤哲夫

2010年の後半は大きな病気で長期入院をしてしまい(註1)、現場から離れるを得なくなつたため、逆により大きな視点からいろいろと考えることになった。センター全体の方々などは、理事・幹部スタッフの討議と総会の議決に基づいて決まって行くものだが、時代の要請や変化が激しいので、大枠は決めておいて、あとは臨機応変という力もますます必要になっている。そういう時に大事なことは、しっかりと軸を立ててぶれないことだと思う。その軸となるものについて、少し書いておきたい。

- 1) 中間支援組織や支援センターの仕事は時代によって変化するが、市民の力を信じることがその基底になければならない。この社会の中で大きな役割を果たす市民社会とその中心であるNPOセクターが必要であるという確信がなければ仕事はできない。それが第一である。
- 2) そのためにセンターは、今までではサービスの提供が主任務であったが、これからは多様な主体との協働・共創に軸足を置きたい。数年前から封筒には「支援から共創へ」と印刷してあるのはそのためである。一方的な支援やサービスの提供者ではなく、地域課題の解決のためのつなぎ役、仕掛け役、縁の下の力持ち、そして共演者、同志であつていい。仕事は高度化する。しかし、もう一步前へ、である。
- 3) あるNPOのリーダーの方から、他の支援組織との比較で、代表一人が講師やリーダー役をしているのではなく、複数のスタッフがそれぞれ講師やリーダー役を担っているところに特徴がある、と言っていた。嬉しい言葉である。もはや一人のリーダーが舵取り役やエンジン役を担えるほど、組織も課題も小さくない。そのことを自覚すれば、おの

ずと方向性は決まる。カラフルフェスタのゲストでお話をいたいた久米信行さん(註2)の言うソーシャルメディア(註3)の活用が、その方向性を大いに加速するだろう。

- 4) 世代交代は大きなストレスをもたらすし、組織的には危機である。しかし、危機こそ人を育てるし、組織を変革する最良の機会である。(「みんメル」オピニオン2010年12月号をご覧下さい。<http://blog.canpan.info/minmin/archive/412>)
- 5) 私から見ると、さまざまなNPOで仕事ができる環境は、先達の尽力による夢のような社会変化の結果である。その果実をつまみ喰いするのではなく、10年の単位で世界を見て仕事をして欲しい。右も左もわからない入社時から、数年で中堅、その後のキャリア形成のビジョンがない個人が多いのではないだろうか。たとえ組織にそれがなくても、ほとんどが零細企業の域を出ないNPOだからこそ、一個人の力でいくらでも変えられるのである。もっとコミットを、そしてもっと冒険を!さもなくばどこで仕事をしても中途半端である。私はほとんどの「仕事」を10年単位で取り組んできた。社会的に成果が出るまでには、気の遠くなるような力を継続的に注がなければならない。しかし10年の注力は必ず自他共に大きな果実をもたらすものだ。

註1 加藤ブログ「蜗牛庵日乗」

<http://blog.canpan.info/katatumuri/>

註2 久米繊維工業株式会社代表取締役社長。

T-GALAXY.com日経インターネットアワード、IT経営百選受賞。  
日本でこそ創りえる久米繊維謹製Tシャツを世に問う。

註3 インターネット上のほぼ無償で提供されている種々のメディア。

## 新スタッフ紹介

### ●櫛田 洋一(くしだ よういち)(多賀城サボセン)

お寺巡りが趣味で、休みがあると色々なところへ出かけてはテクテク歩き回っています。大学を卒業してからは3ヶ月間だけですが小学校の先生をしていました。学生時代は市民活動に携わっており、その経験を地元である宮城県で活かせればいいなと思います。

### ●草野 祐子(くさの ゆうこ)(大町事務局)

11月に素晴らしい皆さんとのご縁を頂きました。ありがとうございます!今は薔薇メインのガーデニングに気も漫る状態です。「せみ」は私を虜にしそうで怖いです。流されぬよう、がさつにならぬよう、源の想いを大切にして参りたいと思っております。

### ●齋藤 裕之(さいとう ひろゆき)(多賀城サボセン)

仙台市宮城野区に妻と子ども二人と義父と愛犬(名前チーズ)と住んでいます。趣味はスキー、星座観察、数独です。最近体を動かす事が少なく運動不足を感じて、愛犬の散歩を兼ね毎朝30分ほどウォーキングをしています。クレジット会社に26年勤務した経験を活かせばいいと思います。

### ●高橋 理恵(たかはし りえ)(大町事務局)

はじめまして。この度プラスコおおまちで勤務させて頂くこととなりました。NPOという組織で働くことは始めての経験となり、まだまだ学ばなければいけない事が沢山ありますが、責任のある仕事が出来るよう努力いたしますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成 22 年度会員(敬称略・順不同、2010年10月1日～11月30日)

(正会員)浅見紀夫、後藤美香

(準会員)(特)子育てネットワークバルボンさん、早坂毅、正村惟

■企業・団体協力(50 音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

### せんだい・みやぎNPOセンター presents 大新年会+プロペラトークス

2011 年の大新年会。目玉は何といっても「ドネーションパーティー」の開催です。

あなたの1コインが、宮城・仙台の課題を解決します!  
ご参加をお待ちしております!

日 時：2011 年 1 月 12 日(水)19 時～21 時

会 場：仙台市市民活動サポートセンター  
市民活動シアター(地階)

内 容：ドネーションパーティー、当センタースタッフ紹介、  
セクターを超えた交流

参加費：3000 円(2500 円が参加費、500 円は  
ドネーションチケット代です。)

定 員：60 名。(NPO、企業、行政、学生、一般の皆さま)

詳 細：当センターブログや HP をご覧ください。

申 込：要事前申込み。

当センターブログや HP をご覧ください。

締 切：定員に達ししだい締め切らせて頂きます。

\* 食べ物、飲み物の差し入れ、大歓迎です♪

### 地域における 環境政策提言力向上セミナー

日 時：2011 年 1 月 16 日(日)9:30～17:50

会 場：仙台市市民活動サポートセンター 6F  
セミナーホール

講 師：川北秀人さん

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者  
詳細は当センター HP をご覧ください。

### NPO 経営相談

開催日：平成 23 年 1 月 19 日(水)

平成 23 年 2 月 22 日(火)

開催時間：13:00～17:00

場 所：せんだい・みやぎ NPO センター

相 談 料：2,500 円(1 時間単位、会員は 500 円引き)

※予約制です。まずはお電話を。

### | 編 | 集 | 後 | 記 |

「2010 年はどうなるのだろう?」。1 年前の後記に書いた。一回りして。プライベートもオフィシャルもそれぞれ1つずつ大きな出来事があった。その予兆は「12 年に 1 度のラッキーヤー」と言われた 09 年からあった。そして 10 年それが現実となつた。さて 11 年である。現実となつたことをしっかりと根付かせる年にしたい。そしてまた、これから巻き起こるであろうことにも真摯に向き合つていこうと思う。(OGAWA)

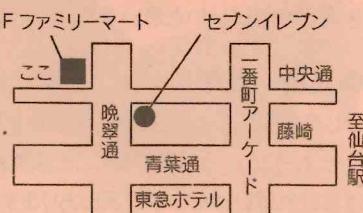
師走は、スタッフ面談で 5 日間で 30 名のスタッフと各 1 時間ほどお話をしました。今回は、なぜ市民活動支援をする組織で働いているのかが、メインテーマでした。そこで見えてきたことは、市民活動団体の活動への「共感力」が高いか低いかではないかと思いました。世の中の役に立ちたいから、この組織で働きたいと思っていても、ただそれを眺めているだけではお役に立ちません。所属している組織に対しても、また、施設を利用したり、助成金を提供している団体に対して、興味を持ち共感し、行動することができるかどうかではないかと思いました。最近、加藤代表理事が元気になって、ときどき立ち寄ってくれるようになりました。2011 年は、そんな加藤さんと私たちの組織の新しい形を創造する年になりそうです。(べにむらあきこ)

### 連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター  
〒980-0804 仙台市青葉区大町 2-6-27 岡元ビル 4F  
TEL : 022-264-1281 FAX : 022-264-1209  
E-mail : minmin@minmin.org HP : <http://www.minmin.org/>

### 発行：(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1F ファミリーマート  
編集部：小川真美・紅色晶子  
発行日：2011 年 1 月 1 日  
デザイン：氏家朗



岡元ビル 4F 仙台駅から徒歩 20～25 分